

多世代がともに住み集う快適なまち

広報 長浜まちなか

令和 7 年(2025年) 3 月 1 日発行

長浜まちなか地域づくり連合会発行

T 526-0037

長浜市高田町12-34

長浜まちづくりセンター(さざなみタウン)内

TEL・FAX 64-2753



令和 7 年度「こどもDoまんなかひろば」企画・調整進む！

子ども一人が育つには、一つの村が必要だ (It takes a village to raise a child.)

※アフリカのことわざ：子どもを育てるのはその親だけではなく、家族・学校や習い事の先生・友人や地域の人など、地域のいろんな人の知恵や協力があってなし得るものということ。

昨年 5 月からはじまった「こどもDoまんなかひろば」、毎月 50 人前後の人たちに支えられ、200 人前後の子どもたちが参加、毎月・第 2 土曜日、恒例の「こどもの居場所」となっています。

これまでの会場の子どもの様子や、保護者やスタッフのご意見をご紹介します。

- 午前と午後、いろんな講座や催しがあるので、選べていいよ。子どもだけで、考えて、なにかやってみたいなあ。
- 楽しそうな講座がいっぱい。でも、なじめない子どもらが、「えほんひろば」で、一人で、友達と、親と、のんびり、ゆっくり。こんな場所が、もっと欲しいなあ。
- しゃぎり（曳山まつり）体験で、人の関りに不慣れな子どもが、いつのまにか、他の子に太鼓を教えられるように。曳山まつりにも参加できるようになればなあ。
- さつまいもの植栽と収穫。紅葉がきれいな“ふくらの森”で、焼き芋大会など森のまつり。何回か一緒にいると、顔なじみがたくさんできるよ。
- 未来創造委員会（商工会議所青年部）の“こほくおしごとたいけん”。この地域の事業所のお仕事を体験した子らが、いずれ、魅力を感じて Uターンしてくれればなあ。
- 子どもらが、大人に交じって、お料理づくりにチャレンジ。来年は、お料理のメニューづくりから。
- スタッフもけっこう大変やけど、子どもやスタッフ同士でふれあえて、楽しいです。

<令和7年度の実施予定>

- ・日時 毎月第2土曜日の10時から15時
- ・場所 長浜まちづくりセンター 1 階・2 階フロア
- ・課題
 - ▶ 事業の企画から実施まで、子ども自身が、あるいは大人と一緒にできないでしょうか。
 - ▶ 人数だけではなく、一人ひとりの子どもの育ちに着眼した取組にできないでしょうか。
 - ▶ ひろばに参加しにくい子どもたちに声をかけることができないでしょうか。
 - ▶ もっと、支えるといった点で、地域に広がりをもたせられないでしょうか。



大募集 こうした事の実現には、ひとつの村が必要です。子ども食堂をはじめ、“こどもDoまんなかひろば”の運営にご協力いただける方（個人、団体・機関）を募集します。

是非とも、一度、事務局（ntd.rengoukai@gmail.com）まで気軽にお問い合わせください。



ペープサート（紙人形）を
作って演じよう



10人満員御礼のしゃぎり



のんびりえほんひろば



地連(長浜まちなか地域づくり連合会)の活動

地域の力(自助・互助)だけでは解決が困難な問題・課題について、市や県にその解決を要望する一方、必要に応じて、事業の協働化(共同実施)を働きかけます。

毎年、地域が一丸となって、市長に要望活動【ステップ1】

これまで、毎年、市長や関係部課長に、地域づくり連合会役員と連合区長が中心となって要望活動を実施しています。今年度も、各連合区長さんからの要望事項などを取りまとめ、3つの課題に対応した重点事項と個別の一般事項で、20の要望事項を提出しています。昨年12月に、長浜市から回答がありましたので、その一部をご紹介します。

要望への回答(重点事項の主なもの)	
課題Ⅰ 人口の減少と若者の流出への対応 市内でも最も少子高齢化が進んでいる状況を踏まえ、高齢者を支える仕組みや若者が定住できる環境が必要	
【要望】旧市立長浜図書館跡地の活用について ○地域振興につながるよう、検討協議できる場の設置 ○滋賀県主導による拠点の整備	【回答】 地元の要望は、令和6年9月に滋賀県へその内容を送付。旧長浜図書館跡地は、滋賀県へ返還済。滋賀県からの利用希望の照会は、庁内で意向を確認し、利用の希望がないおね報告済。このため、地元要望への新たな対応はなし。
課題Ⅱ 災害に弱いまちの構造と水害への対応 老朽木造建築物が連たん・密集し、狭い道路が多く、地震災害時には大きな被害が。また、米川の溢水による水害も。災害への確実な対応が必要	
【要望】 防災上、極めて課題のある密集住宅市街地の防災力の向上・住環境の改善をめざし、住民と行政だけでなく、専門家等も交えた協議の場を。	【回答】 能登半島地震での大規模火災を踏まえ、建物の耐震化・不燃化をはじめ、生活道路の整備など安全なまちづくりに関係機関と連携して取り組む。家庭の火災対策を啓発し、防火意識の強化に努める。市もできるだけお手伝いするので、自発的な防災計画となる「地区防災計画」の策定の検討を。
課題Ⅲ コミュニティの弱体化への対応 自治会の担い手が少なくなり、共助が機能しない状況にあり、昨今では、自治会の解散も。コミュニティのあり方や、その力を発揮するための新たな対応が必要	
【要望】 長浜まちづくりセンターの指定管理等(地元の管理運営)について ○長浜まちづくりセンターの指定管理の早期実施 ○長浜まちづくりセンターに代わる地域拠点の整備	【回答】 ながはま文化福祉プラザは複合施設で、長浜まちづくりセンターのみを切り離して管理運営業務できない。また、長浜まちなかでは、現在の長浜まちづくりセンターを地域の活動拠点として活用を。

●治水対策の第一歩・貯水地は、令和8年度に完成！

地域づくり連合会の役員とまちなか連合自治会の区長が、県・市議会議員とともに、県庁に出向き、知事や関係部長に、**直接要望**しています。昨年の11月にも、米川の治水対策に加え、米川の自然再生および利活用の推進を所管の部長に要望しました。

治水対策は、①抜本的な対策(遊水地の整備など)の早期完成、②堆積土砂の計画的・定期的な浚せつ、③危険個所の護岸補修、④洪水時における緊急対応の迅速化・強化、⑤米川治水対策連絡協議会(県長浜県土木事務所、長浜市、地元沿川自治会等で構成)でのタイムリーな情報提供の5点を要望しています。

また、昨年12月に開催された**米川治水対策連絡協議会**(県、市、地元で構成)において、「三菱ケミカルが所有する多目的グラウンドにつくられる貯水地は令和8年度に完成したい」「しゅんせつ箇所は、県も調査するが、地元からの情報提供もお願いしたい」との回答がありました。



詳しくは、地連ホームページで



「行政への要望、行政との協働化の推進」

まちなか未来応援会議で意見交換し、解決方を提言【ステップ2】

この回答内容を検証するため、1月に、まちなか未来応援会議(座長/前・辻正明地連会長、委員/地連正副会長・顧問(市議会議員含む)で構成する専門委員会です。まちなかの未来を見据えた対応策や、地域が抱える諸課題の解決策を提案していくための協議・検討を行います)を開催し、意見交換するとともに、とりまとめを行いました。

要望への回答評価
【主な意見】 ①大きな視野で、ランドデザインを提示いただければよかったと思う。 ②要望の趣旨がうまく伝達できていなかったようです。要望後、キャッチボールが必要では。 ③地域住民の意見は、審議会やパブリックコメントだけでは、十分に意見が反映されるとは思えません。 ④まちなか地区は、事業所・事務所も多く、多くの観光客が訪れる地区でもあり、市の中核的な機能が集中していて、他の地区と同じ尺度で、防災や空き家対策などをとらえることはできないのでは。 ⑤開館5年目を迎えた長浜まちづくりセンターは、複合施設で、市外をはじめ、あらゆる方が利用されています。その地区の拠点として整備され、地元の地域づくり協議会が管理運営をしている、他のまちづくりセンターとは、利便性の点で大きく異なるなど、まちなかに不利益が生じていないか懸念します。
その解決方策として
①ともに考え、行動できる場・機会をつくろう 要望に係る市の部署だけでなく、未来創造部など包括する部署も含めて、地域とともに、課題・問題への理解を深め、そして、解消策を検討していく場が必要です。 ②地域の実態への理解を深めよう 合併で広大な長浜市になったことにコロナ禍が重なり、市職員と地域との関りが薄れ、まちなかに限らず、各地区の実情把握が難しくなっているように感じます。机上だけでなく、実際に“現場”で、“現物”を観察し、“現実”を認識し、地区の問題解決を、地区と行政がともに協働して探っていく機会が必要です。

行政とともに地域のことを考える「暮らしデザイン懇談会」を【ステップ3】

2月の企画運営会議で協議した結果、未来応援会議の提言を踏まえ、地域の問題への今後の対応を考えると、平成29、30年度、令和元年度に実施した「暮らしデザイン懇談会(円卓会議)」を、来年度、開催していったらいいということになりました。

さて、この暮らしデザイン懇談会は、円卓会議の手法を用いながら、まちなかの私たちに、行政職員も加わり、互いに情報交換しながら、“協働”を前提として、様々な問題の解決の方策を探っていく場となるものです。

これからも、まちなかの人口の減少に伴い、さまざまな問題が生まれてくることが想定されますが、有効な手法の一つとして考えられます。



暮らしデザイン懇談会・円卓会議
(令和元年度)

☆☆☆ 第4期地域づくり計画 住民アンケート調査結果（速報）☆☆☆

長浜まちなか地域づくり連合会が、これからの5年間で、どういう目標で、どんな活動をしていくか計画を作成する基になる住民アンケート調査を行い、集計しましたので、抜粋してお知らせします。

[詳細は、地連ホームページに掲載中](#)

- 調査期間：令和6年12月2日～12月22日
- 対象者：79自治会ごとに自治会長から、若者・女性などのバランスを考慮して、回答用紙を配布
- 回収数：259（前回R元年258）
※回収率73.8%（前回R元年57.8%）

- 調査結果
- <全体概要>

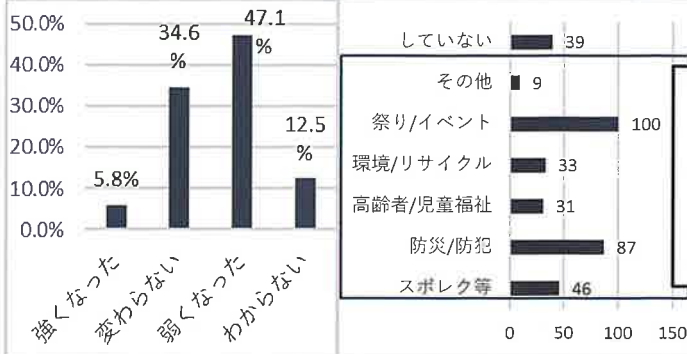
前回から5年経過したが、長浜まちなか地区が抱える
3つの課題が未解決で、相変わらず危機感が高い。

- 人口の減少と若者の流出への対応
- 災害に弱いまちの構造と水害への対応
- コミュニティの弱体化への対応

<注目が必要な項目>

1. 「住民どうしのつながり」が「弱くなっている」と思う割合が増加（31.5% → 47.1%）
2. 「つながりが弱くなった理由」が「世帯・人口減」に次ぎ、「地域への大人の関心の減少」が2位に
3. 「活動していない」人は少なく、何らかの活動をしている人が多い！

住民どうしのつながりは変化しましたか？ あなたの町で何か活動をしていますか？



わ！輪！O!! みんなでつながる広場

日時 2025年 3月2日(日) 13:30~

長浜の市民活動・地域づくり団体が大集合！
さまざまなジャンルや境界を越え、
「新しい出会いから新しいものが生まれる」を
目指し、「みんなでつながる広場」を開催します。

「わ！輪！O!! みんなでつながる広場」

2025年3月2日（日）13：30～16：00

さざなみタウン内、多目的ホールで開催

長浜市の市民活動や地域づくり団体23団体を囲み、参加者の皆さん同士で対話しながら、交流&情報交換するイベントです。

「若者コメンテーター」とともに、活動への意見や質問を出し合い、未来についてみんなで考えます！

——2024長浜まちなかフェスタ関連イベント——

申込はこちら



「自治会だからこそ」の役割



「防犯カメラで町の安心感アップ」

船山町自治会は北国街道が通り、周辺に文化観光施設もあることから自動車や歩行者の多い町です。長浜駅から高校へ向かう生徒の自転車通学路にもなっています。

防犯カメラ設置のきっかけは、当町で数年前に起きた事件でした。北国街道沿いの稲荷神社の鈴ひもが燃やされるという事件が、2回も起きたのです。その後も住居の柱が自動車に当て逃げされる事故が起き、「防犯カメラがないと町が守れんで!」と、危機感が募りました。そこで時の自治会長が役員と相談し、まずは稲荷神社の前にある街路灯のポールに南向きのカメラを付けました。

その後、一昨年は当神社前の北向きに、昨年は少し離れたヤンマー長浜工場近くに付け、今年は十一川南の北国街道沿いに付ける予定です。完了すれば町内の家の前をカバーでき、「ひとまずは安心です」と西田隆道自治会長。

昨年も歩行者が自動車のサイドミラーに当て逃げされる事故が起きましたが、防犯カメラのおかげでスピード解決。その効果が住民のあいだで大きなニュースになりました。黄色い「防犯カメラ作動中」の看板がよく目立ち、防犯や交通安全の予防効果も期待できます。安全・安心なコミュニティづくりは自治会だからこそその役割です。



稲荷神社前の防犯カメラを指す西田隆道自治会長